



第2回自然体験活動1日講座の開催 ～自然を感じるアクティビティの開発～

平成27年10月6日（火）に「自然を感じる」をテーマに第2回自然体験活動1日講座を開催しました。今回は、自然を感じるアクティビティを体験した後、この体験を生かして、独自のアクティビティを開発するという日程です。午前中は、「音取物語」と「森のレストラン」を体験してもらいました。

1つ目の「音取物語」は、いくつかの課題に対して、自然の中にあるものを材料にして、いろいろな音を作り出し、発表し合います。音の感じ方は人それぞれなので、その理由や背景などを説明し、聞き合います。そして、作った音をもとに音を使った物語を考え、物語の発表会を開催するところまでが流れですが、今回は時間の関係で物語の作成までは

できませんでした。音が持つ様々な表情を聞き取り、音のイメージをつかみ、音を通して想像力を高めるといった情感体験をすることができます。

2つ目の「森のレストラン」は、本校の施設内をグループごとに散策しながら、いろいろな形や色の自然物を集めて、食事のメニュー（和食、洋食、中華から選択）を作り出す活動です。料理の材料を探すことを通して、自然をより深く観察する目を養うとともに、活動を通してグループで色々なアイデアを互いに出し合うことにより、コミュニケーションを深めることも出来ます。

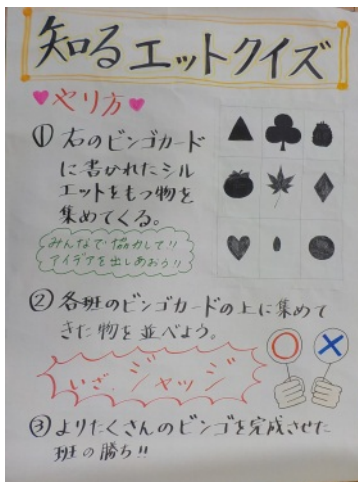


午後は、午前の実習をもとに「自然を感じる」アクティビティをグループで考えました。考える上で大切にしてもらおう視点は、“五感を使う自然体験活動である”ことと“活動のねらいを明確にする（そのアクティビティを通して、児童生徒に何を感じてほしいか、どんな力を身につけさせたいか等）”ということです。その点を念頭に置いて、試行錯誤しながら班ごとにアクティビティを開発しました。今回は、グループ数が少ないこともあり、開発したアクティビティの概要、目的、手順、留意点などを中心に説明した後、全員で、そのアクティビティを実施しました。実際に体験したことで、振り返りでは、互いのアクティビティを評価することができ、その成果や改善点が明らかになりました。



◆受講者が開発したアクティビティ（例）◆

《 知るエットクイズ 》

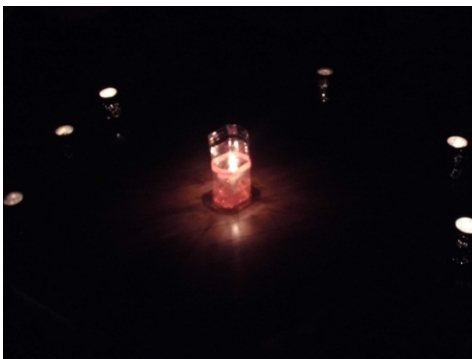


自然物の中には、いろいろな形をしたものがあります。その中からビンゴカードに書かれたシルエットに合うものを探し出します。時間内に、縦、横、斜めのビンゴをできるだけ多く完成させる活動です。指導上の留意点は、危険な場所や動植物がないか事前に調査をすること。活動範囲を指定すること。材料集めをするときは、軍手を着用すること。活動終了後は、自然物を元の場所に戻すこと等です。

子どもたちが自然を深く観察するための手立てとして、今回の自然体験活動1日講座のように、ゲーム的な要素を含む活動も一つです。既存の活動も良いですが、先生方が開発された活動であれば、より子どもたちの実態に合った活動となるのではないのでしょうか。

振り返り活動の紹介

★小野市立市場小学校



自然学校の最後の夜に、これまでの自然学校を振り返ったり、これからの自分の目標を発表したりするキャンドルサービスを行う学校があります。多くの学校は、ろうそくを持ち込みます。中には、廃油を利用して作ったろうそくを使って行う学校もあります。市場小学校は、手作りの空き缶ランタンを前日に作成してキャンドルサービスを実施しました。自分たちで作ったランタンを囲み、一段と思い出深い夜になったことでしょう。

★姫路市立谷外小学校



4日目にジャンボカルタをつくりました。文字札は、子どもたち一人一人が自然学校の思い出やがんばったことなどを俳句等で表現していました。絵札は、模造紙を利用して風景や活動の様子を表現していました。最終日のジャンボカルタ大会では、先生が読み手となり、「みんながんばったね」などという各活動での子どもたちのがんばりを認めながら読んでいました。子どもたちは教師のコメントに笑顔で反応したり、「これは、〇〇くんが考えた文章だ」などと友達の写真札にも関心を持ったりして、生き生きと絵札を取る姿が印象的でした。

編集後記

平成23年3月の兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会の報告の中にも、『子どもたちが体験活動を「振り返って意味を考える」指導をすることが大切である。体験活動を振り返り、何を感じ、何を学んだのかといった意味を考え、言語等で表現していくことで、自分の体験に対する認識が深まり、体験活動における学びが子どもたち一人一人に定着していく』とあります。学校の特色を生かした振り返り活動も取り入れていただければと思います。

(文責 主任指導主事兼指導課長 御栗 康嗣)